中村小学校　研究通信

H30　7月　3日（火）

No.6　　文責　宮﨑　陽子

１学期最後の公開授業は、３９名の最上級生を率いる大野先生の授業でした。今回は高学年のブロックで、教材研究・指導案検討・模擬授業と行い、より納得できる授業を目指してきました。先日私が参加した二瓶弘行教授の講演の中で、物語の「自力読み」の過程の話が印象に残っています。『作品の心（主題：その物語が読者である自分に「生きるってね、人間ってね・・・」って最も強く語りかけてくること）を「自分の言葉で短く表現する」ことが読みのゴールである』という話です。今回の授業では、テーマを考えそれを伝え合う活動がありました。まさしくこれではないかと思ったことでした。究極の読みの授業が参観できると期待が高まりました。

単元名：「人物のここがすごいぞ！」交流会をしよう

教材名：「風切るつばさ」（東京書籍６年）　**研究授業：６年　大野　香奈　教諭**

身に付けさせたい資質・能力

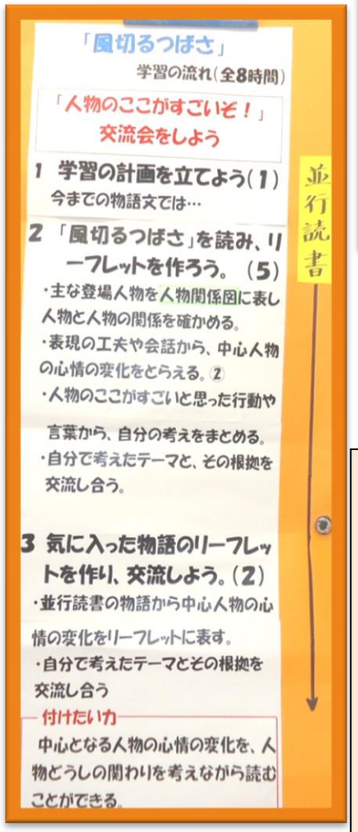
【知・技】（１）ク　比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

【思・判・表】Ｃ（１）イ　登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

【学びに向かう力】言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。

前回の校内研で課題に挙がったところですが、【知・技】と【思・判・表】は、系統性を捉えやすいＣＳそのままの文

学習の流れ



本時の板書　６／８時

授業者【リフレクションシートより】

資　物語全体を読んで、子どもそれぞれの読み方で、テーマが設定されたが、物語に合ったテーマとなってないものを直すべきかどうか迷っていたけど、指導主事からの話を聞いてそれぞれでいいのだと分かりすっきりした。しかし、根拠を詳しく話すことができていなかったという弱さもあった。今後の授業の中で、国語に限らず根拠をきちんと説明できることを指導していく。

主対深　対話では班によって差があったと思うが、友だちのすごいと思うところや新しく気付いたことを一生懸命探し出していた。メモの取り方や話し方についてはまだ課題が残る。対話や全体交流を通して、更に自分のテーマを見直すことで子どもたちが主体的に取り組もうとし、より深く考えられることにつながったと思う。

見　テーマについては自分だけのオリジナルの言葉で表現できるよう、言葉にこだわりを持つことを促していた。条件をいくつか与えることで意欲付けになっていたと思う。

研究協議より（抜粋）

・育成すべき「資質・能力」を付けるために、最適な言語活動であるか。

▼子どもたちの読みがどの程度できているのか、本時だけでは判断できにくい面があった。「付けたい力」の絞り込みが必要。「読みの力」を付けるための言語活動はこれでよかったか？

・単元の目標を達成するための単元計画になっているか。

〇全時の学習を振り返らせたり、めあてを子どもたちに考えさせたり、授業のつながりが意識できていた

▼伝え合う時間をもう１時間増やして、読みの浅い子どもや少し違った読みをしている子どもの修正をするとよいのでは。→友だちの考えを聞いたり自分の考えを語ったりすることで、再思考できる。

・本時の目標が達成できたか。

〇グループ→友だちのよいところ→聞いてみたいテーマ→推敲と流れがスムーズで、思考が途切れなかった。

▼テーマとその理由を伝える時、しっかりと根拠が言えてないと目標が達成したとはいえない。

・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は成立していたか。それはどんな事実からか。

〇対話を多く取り入れることで、根拠を基にしながら話し合えていた。「こういうこと？」「分類すると・・・」と思考を深めていた。

〇自分のテーマと友だちのテーマを比べてもう一度テーマを考えさせた所で、「深い学び」になっていた。

〇個人思考→交流（グループ・全体）→再度個人思考の展開がよかった。多様な意見に触れられ、比較しながら推敲し、自分の考えを形成していた。

・言葉による見方・考え方を働かせた児童の姿は見られたか。

〇「～でさえ」や「立場」など言葉に着目したり、テーマを再考する時も言葉を付け足すか付け足さないか言葉にこだわったりする姿が見られた。

▼読みを広げるためには、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話情景、暗示的に表現されている描写などにもっと返ることが必要ではないか。

指導主事より

・大野先生がこの学級をどんな集団にしたいのかが伝わってきた。子どもたちの学ぶ姿から、学ぶ集団、高まり合う集団だと言える。その理由として①子どもが見通しを持って学んでいる。②子どもが授業のつながりを意識している。③「ここから・・・」と説明していると聞いている子どもが教科書を開けてどこかを確認している。④他の子がどんなメモをとっているか見て学んでいる。

・教材を使って何を学んでいるのかを自覚できるといい。教材名ではない。

・テーマを考え伝え合うことで、言葉にこだわったり友だちから学んだりすることができていたが、自分の思いが強すぎて根拠が弱くなってしまったところもあるのではないか。

・リーフレットの中身は、改善の余地がある。人物関係図を使って読むことは有効であるが、始めと最後の人物関係図だけを比較すると、４年「走れ」のｂｅｆｏｒｅ／ａｆｔｅｒと一緒になってしまう。作者の書きぶりや仕掛けのすごいところを見つける方がふさわしかったのではないか。

修学旅行から帰ってきてからすぐ、教材研究に取り掛かり、ブロック研等で何度も指導案を練り直し、前日もボードをどこに貼るとよいかと板書計画を熱心にされていた大野先生。今回の授業力総合診断シートの結果、「学習集団の組織」の要素が 4.0 でした。全員が満点をつけていたことが分かります。指導主事のお話と重なりますが、やはり学びの土台である学級集団づくりはとても重要で、そこがしっかりできている６年生の学ぶ姿は素晴らしかったです。加藤先生のリフレクションシートに「授業の進め方、クラスの雰囲気など目標となるお手本となるものを見せていただきました。あの姿を目指して頑張りたいです。」とありました。この６年生が、中村小学校を引っ張ってくれると思うと安心です。

熱中症注意報が出たとても蒸し暑い日でしたが、大野先生と３９名の６年生、目標となる授業を見せてくださり、ありがとうございました。